

会 議 録

会議の名称		令和6年度第1回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議		
開催日時		令和6年5月15日（水）開会 9:00 閉会 11:50		
開催場所		つくば市立研究学園小学校多目的室1		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中川西学、佐久間健、山関重人、野尻敏弘 槇幸子、三田部勇、川村靖子 研究学園中学校：校長 板谷亜由美、教頭 小飼美保、 教務主任 原口知武 研究学園小学校：校長 岡田太郎、教頭 細田愛 教務主任 土田剛士		
	その他			
	事務局	教育局 教育局長：吉沼正美 教育局生涯学習推進課 課長：澤頭由紀子 教育局生涯学習推進課 参事：山口健次 教育局生涯学習推進課 係長：飯島遊		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条第1号（個人情報）に該当する情報が含まれるため		
議題		1 学校運営の基本方針について 2 学校の教育活動について 3 その他		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 選任通知書交付 3 教育長挨拶 4 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 5 授業参観（小学校→中学校の順）			

6	座長・副座長の選出
7	協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 学校の教育活動について (3) その他 ・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について
8	閉会

<p><審議内容></p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度第1回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案としてつくば市立研究学園小学校 教務主任 土田先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしくお願いします。</p> <p>2 選任通知書交付</p> <p>事務局：始めに「選任通知書」の交付をいたします。通知書の交付は五十音順で代表者1名とさせていただきます。</p> <p>(「選任通知書」を川村委員に交付)</p> <p>続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。</p> <p>虹色学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として野尻委員、楨委員を虹色学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきます。</p> <p>この推進会議は、協議会を設置するまでのおおむね1年間を予定しています。また、皆様の選任通知書については、机の上にございますので御確認ください。委員の皆様の自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただいております。御了承ください</p> <p>3 教育長挨拶</p> <p>事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、つくば市教育局 局長 吉沼が代読いたします。</p> <p>事務局：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。</p> <p>皆さんこんにちは。教育長の森田でございます。本日はお忙しい中、第1回虹色学園コミュニティ・スクール推進会議に参加いただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当推進会議の委員を快くお引き受</p>	
---	--

け頂き、深く御礼申し上げます。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化している状況があり、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。皆様にお配りしたつくば市教育大綱においても、「保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体でこどもの育ちの場を支える。」ことが、いま必要なこととされています。

こうした背景を踏まえ、つくば市では、「コミュニティ・スクール」を導入していくこととしました。「コミュニティ・スクール」は、学校と地域、保護者がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みです。また、学校を核とした交流を通して、地域の活性化を期待することもできます。

つくば市では、令和4年度に吾妻学園をモデル地域として先行的にコミュニティ・スクールを導入し、昨年度は8学園、今年度は新たに6学園で導入する計画です。その中で見えてきた課題としては、この仕組みをいかに地域に周知し、市民の方々の理解を得ていくかにあると思っています。そのため、教育局では、出前講座のメニューを新設するなど、「コミュニティ・スクール」の周知に努めているところです。

虹色学園においては、本年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。皆様には、それぞれの立場から、子供たちの未来のために何ができるか、意見を出し合っていただければと考えています。つくば市の教育のさらなる充実に向け、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

4 説明事項

事務局：生涯学習推進課 参事 山口より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局：生涯学習推進課 参事 山口と申します。よろしくようお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
- 2 コミュニティ・スクールとは
- 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは

についてご説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配布されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送る、ことを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある

学校づくりを進めて行きたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走というスローガン」のもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかを御説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと地域とともに子供を育む学校と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。もっと踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話し合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

虹色学園は今年度、コミュニティ・スクール推進会議とって準備段階の会議を実施することになっています。来年度は協議会という、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。

現在、学校では、「いじめ、不登校」、「教員の業務量増加」、地域では、「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子供たちの成長を支えたりする必要があります。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについて御説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示ししている4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。

その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことから学校運営協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、学校運営協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まる学校運営協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員

の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員求めることなどです。

④の機能として学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。現在、虹色学園はコミュニティ・スクール推進会議という準備段階の会議となりますが、来年度には協議会という法に基づいた本格設置となります。委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていきますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子供を育てたいのか。何を実現したいのか。という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映してほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しをするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときには、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずですが。

地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。新しいことをやらなくてもよい運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきか、地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること

- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子供を育てる仕組みであること
 - ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
 - ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
 - ⑤地域と学校が連携した様々な活動 地域学校協働活動が始まること
- です。

つくばの未来の創り手となる 子供たちのためにご協力をよろしくお願いいたします。

以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。

【質疑応答】

(中川西委員)

- ・学校評議会とは何が違うのか。

(事務局)

- ・学校評議会：学校の評価に対して助言をもらう。

コミュニティ・スクール：学校の内容について、学校と委員とで共通の目標に向けて、意見を出し合う。熟議をする。学校や地域をつくっていく。

(野尻委員)

- ・サポーターズでは、すでに学校と協力して行っている。

(事務局)

- ・学区の環境に合わせて、地域と協力していく。すでに行っている活動については今後も続けていってほしい。

5 授業参観

6 座長・副座長の選出

事務局：協議の前に、座長と副座長の選出を行いたいと思います。選出につきましては、令和6年度つくば市コミュニティ・スクール推進会議開催要項第6条第2項に「座長及び副座長は、構成員の互選によって定める」とあります。本年度については、コミュニティ・スクールを立ち上げていくということもあり、各校と教育局で協議の上、座長、副座長につきまして提案させていただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。

事務局としては、三田部委員に座長を、中川西委員に副座長お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

参加委員：(拍手)

7 協議

(1) 学校運営の基本方針について

①学園グランドデザイン

虹色学園の子どもたちをどのように育てていくのかについて、学園グランドデザイン

ザインにまとめた。目標は「みんなの幸せを大切に、自ら考え行動できる児童生徒の育成」とし、自分も相手も尊重し合ってほしい。具体的な姿として「研究・探究に主体的に取り組む児童生徒」、「学校の仲間の幸せを大切にする児童生徒」、「くじけず、自立して学校生活を送る児童生徒」という3つの姿の育成を目指していく。この3つをつなぐのは「主体的・対話的で探究的な学びの実現」「非認知能力を育成し、社会的自立を目指す教育活動の推進」「働き方改革の推進による幸せを実感できる学びの場の確立」である。予測困難な昨今において、社会力の育成が急務である。授業においてそれらを意識して取り組んでいるが、コミュニティ・スクールを導入することで、地域の力で補完しながら実現していきたい。

グランドデザインは「自立」と「幸せ」の2つのキーワードをもとに作成した。「中学校を卒業した後に幸せな人生を送ってほしい」、「今の幸せも大切にしてほしい」という願いや思いがある。

(2) 各学校の教育活動の事例の紹介

虹色学園の児童生徒数は、現在約640名である。

学校評価アンケートから：○高評価、●課題

・探求的な学び

○学校は子供たちが意欲的に授業に取り組めるように工夫している。

○学校は子供同士が学び合い高め合えるような授業づくりをしているか。

●学校は子供たちに家庭学習の取り組み方を指導している。

・非認知能力の育成

○学校は子供たちがよいところやがんばったところを認め、自己有用感をもてるようにしている。

●学校は子供たちが体力向上できるよう努めている。

・社会的自立

○学校はいろんな友達によさを実感できるように、教育活動を工夫している。

○学校は子供たちが楽しく学校に通えるようにしている。

・開かれた学校

○学校は、各種便りなどを通して、子供たちの教育活動に関する情報提供に努めている。

○学校は、家庭への連絡や意思の疎通などをきめ細やかに行っている。

虹色学園では、9年間の連続した学びを実現するため、行事や学習などに合同で取り組んでいる。施設隣接型の小中学校のよさを生かして、合同でのスポーツフェスティバルや昼休みのドッジボールなどの交流、オープンスペースを活用した主体的・対話的な授業を行っている。このように虹色学園では、子供たち同士が実際に交流することによって、9年間の連続した学びを実現できるようにしている。昨年度はサポーターズの協力のもと、キャリア学習やクリスマスコンサート、除草作業、出前授業など行うことができた。

【質疑応答】

(野尻委員)

- ・ グランドデザインの内容は昨年度から変更があったのか。
- ・ 数値の目標のやり方について考えていることはあるのか。

(岡田校長)

- ・ 開校2年目であるため、昨年度からは大きな変更なし。
- ・ 数値目標については、コミュニティ・スクールで評価の方法について御意見をいただきながら考えていきたい。

(板谷校長)

- ・ 教育効果はすぐに出てこない。継続した教育活動を実践していきたい。

(野尻委員)

- ・ 先生方の働き方について現状はどうなのか。

(細田教頭)

- ・ かなり帰りが遅いという教員はいない。
- ・ 学年で協力しながら、教材研究を行っている。

(小飼教頭)

- ・ 教科によっては1人の教員が3学年分を受けもっているところが大変である。
- ・ 教材研究は大切であるが、タイムマネジメントについて助言していきたい。

各校のグランドデザインに賛同 →全員拍手

(3) その他

次回のコミュニティ・スクール推進会議は令和6年8月6日(火)14時から、第3回は、令和6年11月21日(木)の14時から、第4回は、令和7年2月13日(木)の14時からになります。

8 閉会

本日の協議の内容は以上になります。なお本日の会議の様子や写真について、つくば市ホームページへの掲載を予定しています。

令和6年度第1回虹色学園コミュニティ・スクール 推進会議

日時：令和6年5月15日（水）

9：00～11：00

場所：研究学園小学校 多目的室1

次 第

1 開 会

2 選任通知書交付

3 教育長挨拶

4 説明事項

つくば市のコミュニティ・スクールについて

5 授業参観（研究学園小学校→中学校の順）

6 座長・副座長の選出

7 協議

(1) 学校運営の基本方針について

(2) 学校の教育活動について

(3) その他

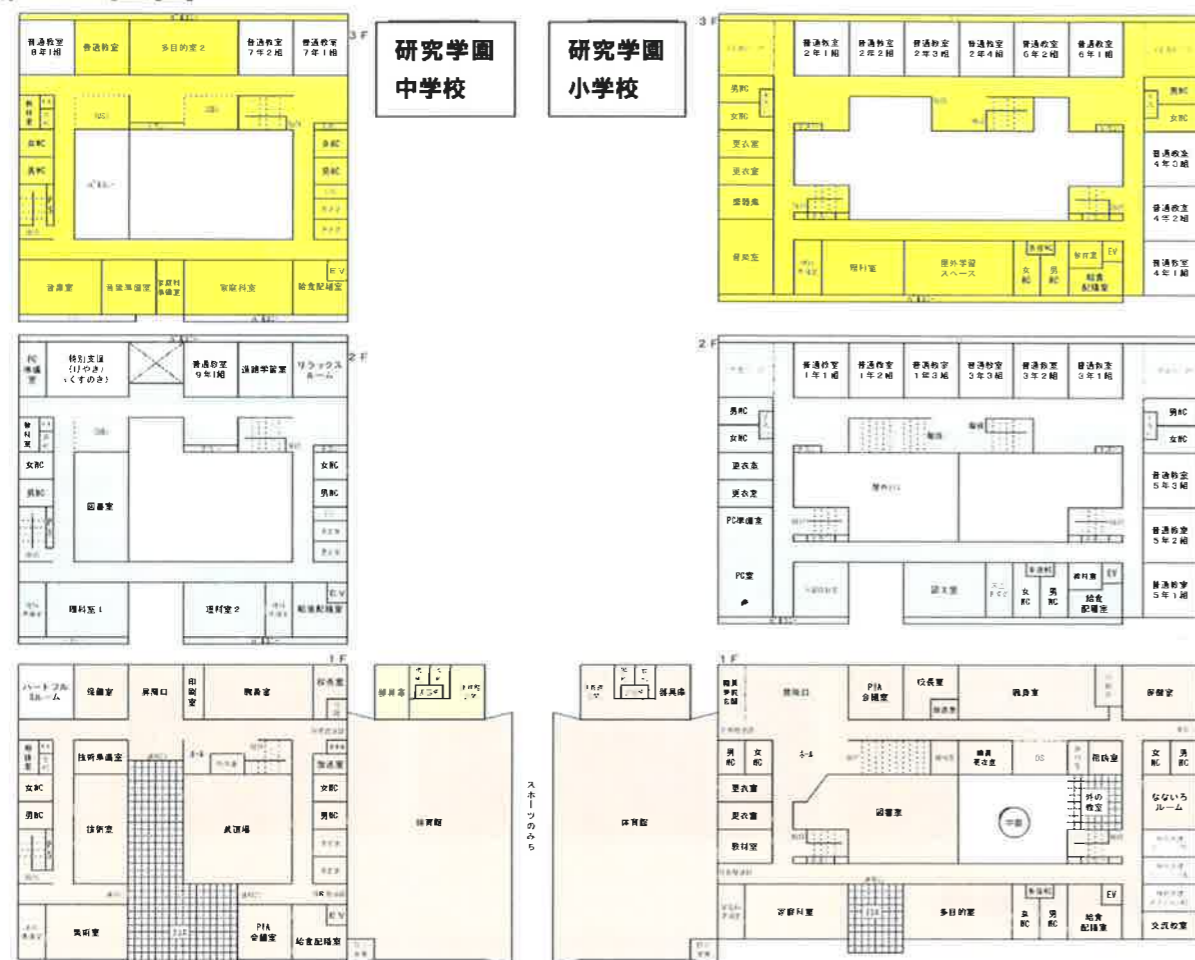
・コミュニティ・スクール推進会議の今後の予定について

8 閉 会

令和 6 年度 虹色学園コミュニティ・スクール推進会議構成員名簿

番号	委嘱の区分	氏名	よみがな	所属・役職
1	(1)地域住民	中川西 学	なかがわさい まなぶ	地域住民
2	(2)保護者	佐久間 健	さくま たけし	サポーターズ代表
3	(2)保護者	山関 重人	やまぜき しげと	サポーターズ副代表
4	(2)保護者 (3)地域学校協働活動 推進員	野尻 敏弘	のじり としひろ	サポーターズ副代表 地域学校協働活動推進員
5	(2)保護者 (3)地域学校協働活動 推進員	楨 幸子	まき さちこ	サポーターズ副代表 地域学校協働活動推進員
6	(4)学識経験者	三田部 勇	みたべ いさむ	筑波大学
7	(5)学校長	板谷 亜由美	いたや あゆみ	研究学園中校長
8	(5)学校長	岡田 太郎	おかだ たろう	研究学園小校長
9	(6)教職員	小飼 美保	こがい みほ	研究学園中教頭
10	(6)教職員	細田 愛	ほそだ あい	研究学園小教頭
11	(6)教職員	原口 知武	はらぐち ともたけ	研究学園中教務主任
12	(6)教職員	土田 剛士	つちだ たけし	研究学園小教務主任
13	(7) 関係行政機関の 職員	川村 靖子	かわむら やすこ	児童クラブ長
14				
15				
16				
17				
18				

校舎配置図



児童生徒数

4月1日現在(人)

学年	男子	女子	合計
1年生	38	43	81
2年生	56	54	110
3年生	47	40	87
4年生	47	39	86
5年生	46	52	98
6年生	44	31	75
7年生	29	22	51
8年生	17	22	39
9年生	3	11	14
合計	327	314	641

教職員数 4月1日現在(人)

職名	人数
校長	2
教頭	2
教務主任	2
教諭	32
講師(非常勤講師含)	3
養護教諭	2
事務職員	2
学校管理員	2
A L T	1
特別支援教育支援員	4
理科支援員	1
学校司書	2
学校サポーター	4
スクールカウンセラー	1
スクールソーシャルワーカー	1
スクールサポートスタッフ	1
学校生活相談員	2
校内フリースクール支援員	3
合計	67

令和6年度 学園要覧 虹色学園

つくば市立 研究学園中学校

KENKYUGAKUEN JUNIOR HIGH SCHOOL



つくば市立 研究学園小学校

KENKYUGAKUEN ELEMENTARY SCHOOL



〒305-0817

茨城県つくば市研究学園二丁目26番地

研究学園小学校 ☎ 029(879)7755 FAX 029(855)1071

URL <https://www.tsukuba-school.jp/kene/>

研究学園中学校 ☎ 029(869)5321 FAX 029(855)2300

URL <https://www.tsukuba-school.jp/kenj/>

虹色学園ランドデザイン2024

茨城県教育目標

ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう

じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う

郷土を愛し協力し合う心を育てる

【教育理念】

- 児童生徒が今の幸せを実感できる教育活動を実践する。
- 児童生徒が将来、自立して幸せな人生を送るための力を育む。
- 一人一人に寄り添い、誰一人取り残さない。

つくば市の目標

みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園

自己実現できる学校

みんなで支え合い、みんなが生き生きとした学校

【学園教育目標】

みんなの幸せを大切に、自ら考え行動できる児童生徒の育成

目指す学園像

- 子どもも保護者も教職員も幸せを感じられる学園
- ・学びたくなる学園
- ・子どもが自らつくる学園
- ・挑戦が賞賛される学園

目指す児童生徒像

- 研 研究・探究に主体的に取り組む児童生徒
- が 学校の仲間の幸せを大切にしている児童生徒
- く くじけず、自立して学校生活を送る児童生徒

目指す教師像

- 人間性豊かで高い使命感のある教師
- 子どもの多様性を理解し、一人ひとりに愛情をもって寄り添える教師
- 明るく前向きで、尊敬しあい協働のできる教師

【組織目標】

- 主体的・対話的で探究的な学びの実現
- 非認知能力を育成し社会的自立を目指す教育活動の推進
- 働き方改革の推進による幸せを実感できる学びの場の確立

主体的・対話的で探究的な学びの実現	非認知能力と社会的自立を目指す教育活動の推進	働き方改革の推進による幸せを実感できる学びの場の確立
<p>【特色ある施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びを促進するための「指示から問いかけ」への転換 ○ワクワクが連続する学びのデザイン ○単元のゴールの姿に向けた単元構成の工夫 ○自分の問いを立て、探り、新たな問いへとつながる学びの工夫 ○一人一人の創造的活用 ○授業と家庭学習の連続的学びの確立 	<p>【特色ある施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デジタルの良さも生かしたりアルな体験活動の重視 ○感性を磨く芸術活動の重視 ○遊び・生活科・スタイル科と連携した感性の涵養 ○ルールメイキングの推進・充実 ○対話を重視した合意形成活動の充実 ○たくましく生きるための健康や体力の育成 	<p>【特色ある施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心と信頼にあふれ、高め合う学級・集団づくり ○試行錯誤と挑戦が賞賛される集団づくり ○多様性を尊重した自治活動の充実 ○安全、安心な居場所づくり ○インクルージョンを意識した多様な他者と関わる学びの充実 ○働きやすさと働きがいの両立
<p>【数値目標（80%以上）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進んで授業に取り組んでいる。 ○端末を工夫して自在に使う。 ○複数単元で自分で問いを作っている。 ○根拠の適切さを考えて自分の考えを伝える。 	<p>【数値目標（80%以上）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えて行動できる。 ○最後まで粘り強く取り組める。 ○体力テストA+B(45%) 	<p>【数値目標（80%以上）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎日が楽しいと思う。 ○自分のいいところを知っている。 ○働きがいがあり働きやすい。

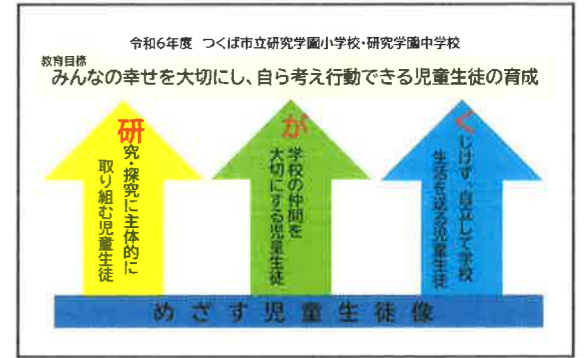
小中一貫教育の推進

- 施設隣接型小中一貫校の特徴を生かした学校組織の一体化による効果的な学校経営
- 児童生徒の日常的な交流による、より多様な他者との関わりを生かしたダイバーシティかつインクルージョンな学びの推進
- 教職員の密な連携と協働による、連続的および系統的な児童生徒の学びや育ちの伴走

AIを活用した教育の創造	働き方改革の推進	保幼小連携の充実
<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で探究的な学びにAIを活用することによる個別最適な学びのバージョンアップ ○教育と生成AIを融合させた創造的な学びの実現に向けた職員研修の充実と教育資源の発掘、活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者ボランティアを生かす学校運営の推進 ○環境整備に対する役割分担および簡素化 ○時間外業務時間月あたり4.5時間以内の徹底 ○働きがいを高めるワークライフバランスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○接続プログラムの充実による切れ目のない資質・能力の育成 ○交流活動や相互参観の充実による遊びから学びへの円滑な接続
特別支援教育の体制づくり	安心・安全な学校づくり	地域とともにある学校づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○障害の状態や特性等に応じた指導上の配慮の充実 ○インクルージョン体制の推進と全教職員による指導体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○リスクマネジメントとクライシスマネジメントの日常的アップデートと適切な運用 ○福祉の視点を取り入れた支援体制の確立と、SC,SSWの積極的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティスクール運用を見通した地域・保護者との連携体制の推進 ○積極的な情報発信による信頼の獲得および地域との学校運営協力体制の推進

研究学園小学校・中学校の学校教育目標

つくば市では、「みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園」を、『目指す学園・学校像』としています。このことを受け、研究学園小学校・中学校では、学校教育目標に、「幸せ」を取り入れ、「みんなの幸せを大切に、自ら考え行動できる児童生徒の育成」に決めました。また、『研・が・く』を合言葉に、3つの具体的な『目指す児童生徒像』を掲げました。施設隣接型小中一貫校の利点を生かし、小学校と中学校をシームレスにつなぎ、これらの目標や児童生徒像を目指して、すべての教育活動に取り組んでいきます。



研究・探究に主体的に取り組む児童生徒

が 学校の仲間を大切にしている児童生徒

くじけず、自立して学校生活を送る児童生徒



主な学校行事等

月	行事等
4月	1学期始業式、小学校入学式・中学校啓志式、交通安全教室(1・7年)、避難訓練 授業参観・懇談会、修学旅行(9年)
5月	小中合同引渡し訓練、部活動保護者会、市陸上競技会、修学旅行(6年)、校外学習(1～3年)
6月	水泳学習(~7月)、市総合体育大会、企業体験学習(8年)
7月	校外学習(6年)、面談(全学年)、市英語プレゼンテーションフォーラム、職場体験学習(8年)、夏休み 県南総合体育大会
8月	夏休み
9月	夏休み明け集会、シェイクアウト訓練、宿泊学習(5年)、市新人体育大会
10月	1学期終業式、芸術鑑賞会、2学期始業式、校外学習(1年)、自然体験学習(7年) 面談(6年希望者)、スポーツフェスティバル(小中合同)、県南新人体育大会
11月	校外学習(4年)、面談(9年)、虹色祭(中学校)
12月	避難訓練(不審者)、面談(1～5、7・8年希望者)、創立記念日
1月	冬休み明け集会、面談(9年)
2月	授業参観・懇談会
3月	中学校卒業式、小学校継志式、修了式